

読売

# 教育ネットワーク

社会はまるごと学校——  
すべての大人が先生です



手術室のモニターを見ながら、人工血管をつなぎ合わせる様子を生徒らに説明する医師（左から3人目）。医師を志す高校生29人が大阪大と順天堂大の医療チームに密着した（2～5面へ）

巻頭特集 高校生 命の最前線へ

## 早期医療体験プログラム

順天堂医院／大阪大学病院 2～5

中学校英語弁論大会の上位入賞者3人が英国研修 6

進路選びに役立つ  
ワークシート付き 「大学の實力2019」出版 7

お知らせ・短信 8 リレーエッセー 米ポモナ・カレッジ「HOMEから離れたHOME」 9

2018.9

Vol.45

高校生 命の最前線へ

早期医療体験プログラム

# 医療現場のリアル 体感



医療現場ではどんな学びがあるのか。2018年と17年の様子を中心にした動画を見ることができます。

医学部を目指す高校生が、医師の心構えなどを大学病院の最前線で学ぶ「早期医療体験プログラム」が、7月から8月にかけて行われた。4回目を迎えた今年も、順天堂医院（東京都文京区）で心臓血管外科と小児外科に密着し、大阪大病院（大阪府吹田市）では心臓移植を待つ子どもたちと交流した。読売教育ネットワーク参加校から選ばれた25校29人の生徒は、実際の医療現場で何を学んだのか。

## 「医師で母」の1日に密着

共立女子高2年・広野葵さんら女子生徒3人は、子育て中の女性外科医の1日に密着した。小児外科の朝の打ち合わせが始まり、1時間ほどたった午前8時半。有井瑠美医師（39）が入室し、静かに席に着いた。6歳、4歳、1歳の3人の男の子の母。現在は、午後4時までの

短時間勤務をこなしている。医師を志した当初から、「バリバリ仕事をしながら子育てもしたい」と希望。出産による仕事の中断を想定し、若いうちに多くの経験を積むため、症例の多い順天堂大小児外科を選んだ。今は当直や緊急対応は担当せず、いつでも大きな手術に入

れるわけではない。外来や入院患者の診察、後輩医師の指導などが仕事の中心だ。有井医師は「もう少し子どもが成長したら、またガッと仕事をしたいと考え、夫とも話し合っている。育児だけでなく、それぞれの事情に応じて働き方を変えられるように、医局の雰囲気も変わってきていることを感じる」と話す。

8月初め、東京医科大学による女子受験生らの合格者抑制問題が明らかになった。困惑しながらも、「自分が頑張れば済むこと」と話していた埼玉県立浦和第一女子高2年・黒澤古都寧さん。見学後は「将来は今より、女性が復職しやすい環境になっているかもしれない。私自身も努力して、合格者の抑制が必要ない世の中にしていければ」と考えが変わった。

夕方に勤務を終え、三男のお迎えで保育所に急ぐ有井医師に、洛南高2年・辻本葉穂さんが同行した。西日の差す保育所2階の部屋。よちよち歩きの子を抱き上げる有井医師の表情が和らぎ、母の顔に戻る。

辻本さんはほかの医師の話などから、外科医として経験を積むべき時期に、出産や育児のために現場から離れることの厳しさも感じていた。「将来、自分が医師としてどういう働き方をするか、今の時点では分からない。でももし、外科医として働きたいなら、子育てもするという選択をしたら、きっとしんどい時があると思う。そんな時には、有井先生のことを思い出したい」と話した。



天野教授（左手前）が執刀の様子を見学する内藤陽希さん（右端）と松尾洋佑さん（右から3人目）。人工心臓装置が稼働中のため、モニターの心拍数は「0」を示している



シミュレーションセンターでは模擬手術も体験した



仕事を終え、三男（1）の保育所のお迎えに駆けつけた小児外科医の有井瑠美さん（右）と、同行した洛南高2年の辻本葉穂さん

## 緊急手術 対応力に驚く

順天堂医院で心臓血管外科に密着した生徒3人は、医師を主人公にしたテレビドラマでは描かれることのない医療現場の「リアル」を体感した。「えっ、2件も?」。出勤してきた若手医師は「瞬驚いたような表情を見た。予定の手術4件に加え、前夜救急外来を受診した2人の患者にも、急きよ手術が必要と判断されたのだ。生徒の顔にも緊張の色が浮かぶ。医師はすぐに白衣に着替えて待機室を飛び出す。狭心症の60代の男性の詰まった血管に、別の血管をつなぐ冠動脈バイパス手術。執刀するのは天野篤教授（62）だ。家族への連絡、スタッフの確保、手術以外の勤務の振り分けと、総が

かりで取り組む。「すごい対応力だ」。埼玉県立浦和と高3年・松尾洋佑さんは、張り詰めた空気の中で素早く動く医師の姿に圧倒された。縦に割った胸骨を器具で押し広げる。バイパスに使う血管を肋骨の裏から採取するためだ。ドラマの外科医に憧れて参加した渋谷教育学園幕張高2年・内藤陽希さんは「意外なほど淡々と進む。テレビの中では執刀医が驚いたり、緊迫したりする場

面が付きものなのにと感じた。突然、天野教授が「さて、どうするか……」とつぶやき、一瞬手を止めた。採取した血管の1本が、細くて使えないことがわかったのだ。だが、すぐに胃の近くで別の血管を探す。手術を終えると、天野教授は昼食も取らず次の手術に向かった。4時間以上立ちっぱなしの手術。腰に痛みを感じながら、内藤さんは想像を超える医師の激務に衝撃を受けた。

「手術中に焦ることはないのですか?」。休憩時間に尋ねた生徒に、天野教授は「あらゆる事態を経験したから、想定外で慌てることはない。いつも3パターンくらい打つ手は考えてある」。答えは明快だった。「担当した手術を淡々と終わらせる。それが正解であり、実際の心臓外科医の仕事なんだと学びました」。そう語る内藤さんは、「心から心臓外科医になりたい」と改めて思った。

## 高い志と教養が必要

天野 篤 Amanu Atsushi

順天堂大心臓血管外科教授



医療従事者の視点から高度医療などの現場を見ることで、医師を将来の職業としてイメージしてほしいと考え、プログラムを始めました。働き方改革が議論されていますが、実は手術中に「働いている」とは思っていない。手術を通じて、生きることを実感する時間をもっています。生きることは、自分が関わる人や環境に対して責任を果たすこと。それを理解してほしいと思います。同時に高校2、3年生の頃には、「医師になる」という強い気持ちを持ちつつ、ぜひリベラル・アーツ（教養）を身につけてほしい。「社会人として通用する医師にならなくてはいけないよ」と生徒にも教えています。

## 2015年から実施 4回目

**早期医療体験** 順天堂大心臓血管外科と読売教育ネットワークが連携して、2015年に始めた高校生向けプログラム。昨年から順天堂大学小児外科と大阪大心臓血管外科も生徒を受け入れている。順天堂大は4日間のプログラムを6回、大阪大は5日間を3回実施し、両大学で計29人が参加した。生徒には医師と同等の守秘義務が求められ、患者と家族の同意を得て手術を見学した。

### 日本医師会が特別協賛

今年も日本医師会が特別協賛し、過去の参加者らを対象とした報告交流フォーラムを開催。フォーラムの様子は9月29日読売新聞朝刊の企画広告で紹介している。



休憩時間に山高篤行・順天堂大小児外科教授の話をする（左から）洛南高2年・辻本さん、共立女子高2年・広野葵さん、埼玉県立浦和第一女子高2年・黒澤古都寧さん

### 「キラキラして見えた」

洗足学園高2年・榎本美咲さん たくさんの医師の方から、いろいろな話を聞く機会に恵まれた。共通しているのは、患者を助けたいという思いと、医師の仕事が大好きだということ。みんなキラキラして見えた。

### 「人間の回復力に驚き」

東京都立国際高2年・金智善（キムジンソン）さん 心臓手術をした翌日、患者さんがベッドから半身を起こし、笑顔で色々話してくれた。1日でそんなにも回復していることに驚き、人間の体の回復力と、それを可能にする医師の技術に感心した。

### 生徒の声

# 順天堂医院

【埼玉】開智／県立浦和／県立浦和第一女子／県立川越女子 【千葉】市川／県立千葉／渋谷教育学園幕張 【東京】共立女子／見栄学園／洗足学園／都立小石川中等教育学校／都立国際／都立立川国際中等教育学校 【愛知】海陽中等教育学校 【京都】洛南 【大阪】帝塚山学院泉ヶ丘

参加 高校

高校生 命の最前線へ

早期医療 体験プログラム

# 「最後の砦」覚悟学ぶ

大阪大学病院では高校生11人が3グループに分かれて心臓血管外科に密着した。昼夜を問わず奮闘する医師たちと過ごしたひと夏の学びをレポートする。

## 移植待つ子「助けたい」

船に乗ったワニやカメ、大木から顔を出すゾウ……。壁に描かれた動物を、4人の子どもが真剣なまなざしで探す。大阪大病院の小児医療センターに続くエレベーターホールで、病院が企画した「動物探し探検ツアー」の一コマ。早期医療体験プログラムに参加した生徒たちもスタッフに加わった。

「補助人工心臓が外れる時が移植だよ」とドナーのことを理解するのは、まだ難しい年齢だから」と、穏やかな口調で答えた。塩分や水分の制限を守らせるより、「これは飲んだり食べた

るのですか」と母親に尋ねた。「いつも笑顔で息子さんに接してはいますが、どういう思いでいるのですか」。大阪府立北野高2年・田中創海さんの問いには、「私が笑うことが一番の薬。病院生活を楽しいものにしてあげたいから」と答えた。「息子の望みは、『僕も頑張ったから、いっしょに頑張ろうよ』と患者に言ってあげられるお医者さんになること。みなさんも、そんな医者になってください」。

男の子を担当する平野生医師(42)を交えたその日のミーティング。「あの男の子の方が医師に向いている。医師になりた



心臓手術を間近で見守り、「困難な手術であってもあきらめない外科医になる」と心に誓った



医療現場ではどんな学びがあるのか。2018年と17年の様子を中心とした動画を見ることができます。

## 命と向き合うつらさに涙

「医師の仕事は全力で患者を助けることなのですが……」。プログラム最終日、澤教授との



澤教授との面談で涙を流す八鳥さん

面談。5日間で学んだことを伝えようとしたところ、涙があふれてきた。

口に手を当て声を震わせる大阪府立茨木高2年・八鳥菜唯さん。重い病と闘う患者と家族の姿が次々と交錯するなか、治療方針を検討する会議の光景が脳裏をよぎった。会議で最後に提示されたのは、国内で前例のない「心臓の再移植」。移植から年月がたち、再び重い心不全に陥ったケースだった。

像データをにらみ、10人近い医師が話し合いを続けていた。

た八鳥さんは、動揺していた。「命を救いたくて医師を志していたのに、先生たちのような覚悟がない。私は死が怖い」

「命を救いたくて医師を志していたのに、先生たちのような覚悟がない。私は死が怖い」

「患者がどう生きていきたいのか、どう最期を迎えたいのか。本人が一生懸命考えることを手伝うのが医の原点だと思う」。そう話す医師の言葉を胸に病院を出

た八鳥さんは、動揺していた。「命を救いたくて医師を志していたのに、先生たちのような覚悟がない。私は死が怖い」

「命と向き合うことがどれだけつらく、苦しいか。「それを理解した上で、医師を目指す覚悟が持てた」と八鳥さん。覚悟を後押ししたのは、手術で回復した患者が見せた、たくさん笑顔だった。

## 奉仕の心芽生えるか

澤 芳樹 Sawata Yoshiki

大阪大学心臓血管外科教授



命と向き合うことの重さと責任。その全てを受けとめるのが医師の仕事だと、高校生に伝えていきます。きちんと人の生き死にを考えて医学部を目指してほしいからです。

治療が困難な重い心臓病の人にとって、大阪大病院は「最後の砦(とりで)」。死の恐怖を克服しようとする患者を目にして、何とかしてあげたいと思えるか。生きたいと願う患者に伝えようと懸命に働く医師に密着し、覚悟と奉仕の心が芽生えるか。

外科医療のリアルワールドに触れ、「誰のため、何のために医師になりたいのか」を考えるのが早期医療体験です。生徒たちの原点になればと期待しています。

## 医療を変える最先端技術



iPS細胞から作った心筋シートの見学。シャーレの中で動くシートに、新しい医療の可能性を感じた

ピンク色の培養液に浮かぶ直径数センチの薄いシートが、ヒラヒラと羽ばたく。「チョウチョのように神秘的」「小さな心臓みたい」。心臓病治療のため、iPS細胞(人工多能性幹細胞)から作った心筋シートに、生徒4人はくぎ付けになった。

大阪大病院に隣接する最先端医療イノベーションセンター。河村愛医師(36)は「来春にも心筋症患者の心臓にシートを貼りつけ、再生を促す治療が始まります」と、澤教授らのグループが進める世界初の臨床研究の計画を紹介した。

6月の大阪北部地震で一時中断したが、シートは今後大量培養される予定だ。心筋症患者が治療を受ける様子を目の当たりにし、病気の深刻さを肌で感じていた甲南女子高2年・檜山七愛さんは「シートで患者を救うことができれば医療が変わる」と、人工心臓、心臓移植に次ぐ新たな治療法に期待する。

## 「心で接して不安和らげたい」

大阪星光学院2年・鍵野佑登(ゆうと)さん 補助人工心臓を着けると、感染症や脳梗塞(こうそく)になるリスクが高まると知り、もし自分の子どもがそうなったらと考える一方、医師への決意が固まった。心で接して患者の不安を和らげられる者こそが医師だ。患者をみとる覚悟を持てるようになりたいし、そこから逃げたくないと思った。

## 「手で診ることの大切さ」

洛南高2年・荻野佑唯(ゆい)さん 腹部大動脈を人工血管に置き換えした後、1人の医師が手術台下にもぐった。下半身への血流が確保できているか、足の脈を自ら確認するためだった。患者のため決して妥協しない姿勢に、ジンときた。手で診ることの大切さを教わった。

## 生徒の声

# 大阪大学病院

【愛知】海陽中等教育学校 【京都】洛南 【大阪】大阪教育大学付 属天王寺/府立茨木/府立大手前/府立北野/大阪星光学院/清風 【兵庫】神戸女学院高等学部/甲南女子/灘

参加 高校

# 中学校英語弁論大会の 上位入賞者3人が英国研修



大英博物館を見学する豊田さん、太田さん、溝部君と筆者(左から)。ロゼッタストーンなどを観覧した

午後はスポーツやゲームなどのアクティビティを楽しんだ。また週末にはボートマスやロンドンといった市街地で課外活動に励んだ。

## 自分の人生は自分の努力で

「人生で一番英語を使った」という豊田さんは、日頃から英語で会話をする際には文法や発音を意識していたが、他国の生徒たちが文法や発音に拘らず、表情やジェスチャーを中心にコミュニケーションを行うことに一番驚いたという。また、他国の生徒との交流を通じて、自分で自分の可能性を潰していることもあるのではないかと感じるようになり、「可能性は無量大」という言葉を胸に、これから自分の人生を自分の努力で切り拓いていきたいと語った。

## 伝える内容の大切さ痛感

太田さんは、語学学校の授業で自分の国の学校について話した際に、ある国では全授業が午後2時に終わるということを聞き、日本とのあまりの違いに衝撃を受けたという。また他国の生徒が議論にて積極的に発言する様を見て圧倒され、当初は戸惑ったようだが、英語のみならず、英語を使い他者に伝える内容そのものの大切さも痛感

し、積極性と内容を意識し、議論に参加できるようになった点に自身の成長を感じたようだ。

「英語というコミュニケーションツールがなければ、外国の人とコミュニケーションがとれない」と考え、国際的な言語ツールとしての英語の重要性を感じたという溝部君は、自分の思っていることが英語で言語化出来なかったことへの悔しさを話していた。しかし、それ以上に困ったときに助けしてくれた他国の友人のありがたみや、海外という非日常で体感した経験が自分を精神的に成長させてくれたと語った。

## 将来見つめなおす機会に

バックスマアでの経験を通じ、三者三様の「気付き」があったようだが、3人にとって「人

生で忘れられない夏休みになった」ということは間違いなさだろう。

また、帰国前にはロンドンにある読売新聞欧州総局や三菱商事ロンドンオフィスを訪問した。三菱商事ではジュリー・ロジャーズ広報・サステナビリティ推進部長の案内でオフィス、大英博物館を見学した。

3人は研修を振り返り、この2週間が自分の将来を見つめなおす大きなきっかけになったといい、これからの日本の学校生活や活動にもより積極的に取り組んでいきたいと話していた。

## 無限大の可能性や自身の成長実感

### 英語学びスポーツやゲームも

渡英したのは、静岡県立浜松湖南高校1年の豊田亜美奈さん、私立洛南高校(京都府)1年の太田みらのさん、私立九州国際大付属中学校(福岡県)3

昨年11月に開催された高円宮杯第69回全日本中学校英語弁論大会の上位入賞者3人が7月25日から8月6日までの2週間、三菱商事賞として、イギリス南部のイースト・サセックス州にあるバックスマア・プランプトン・スクールのサマープログラムに参加した。  
(日本学生協会基金本部委員 東京大学4年・土屋敷<sup>かずき</sup>宜)

年の溝部和貴君の3人。滞在先では、ロシア、イタリア、中国など世界各国からの生徒たちと寮生活を送った。

3人は8歳から16歳の生徒たちと交流しながら、平日の午前中は英語の文法や語彙を勉強し、



(上)三菱商事ロンドンオフィスを訪問

(下)バックスマアのキャンパスで世界各国の仲間たちと記念撮影

### 日本学生協会基金 JNSA基金=Japan National Student Association Fund

東京および東京近郊の大学生約60名によって構成されている任意団体。高円宮杯全日本中学校英語弁論大会をはじめとする様々な行事の企画・運営を行っている。

進路選びに役立つワークシート付き

# 大学の實力 2019 出版



「大学の實力2019」  
A4判 192ページ / 1650円(税別)  
問い合わせ：中央公論新社 (TEL.03・5299・1730)

偏差値ではなく「教育力」で大学選びをするための情報提供を目的にしている「大学の實力2019」が出版された。大学・学部ごとの退学率や卒業率、就職率などをこれまで通り一覧表形式で掲載したほか、「多様性(ダイバーシティ)」への取り組み紹介にページを割いた。

## ◆692大学のデータ満載

開始11年目を迎えた「大学の實力」調査は、受験生とその保護者に、偏差値や知名度ではなく教育の質や中身で志望大学を選んでもらうと、読売新聞が2008年に始めた。今回は、全国の4年制・6年制大学(大学院大学・通信制のみの大学・募集停止の大学は除く)755大学に18年4月に調査票を送り、6月に回答を締め切った。主な調査項目は、14年(6年制学部は12年)4月入学者の卒業・退学・留年率や就職・進学率、入試方法別退学率など、かつて「門外不出」とされてきたデータも表参照。読売新聞に7月19日付で掲載した調査結果を再編集・加工し、692大学(回答率91・7%)に上る回答大学のデータを満載したのが「大学の實力2019」だ。

## ◆「多様性」取り組み調査

今回の調査は「多様性」を主要テーマに据えた。急速なグローバル化を背景に、国籍や民族、性別の違いを超えて対話できる力が求められているためだ。学生が多様な人々と交流する機会をどのように工夫しているか聞いたところ、回答した2385学部のうち56%が、多様性をテーマにした科

目を設けていた。企業・省庁・自治体等に学生の学びを支援してもらう仕組みを設けている学部も52%に上った。

教員や学生の多様性を高める取り組みを聞いたところ、女性教員について「増やす必要性を感じている」学部は全体の44%に上り、そのうち21%が増やすための取り組みを実施していた。書籍には学部別の回答を掲載した。

## ◆進路選びの自習シート付き

書籍は調査項目別に4章で構成しており、各章ごとに大学選びのためのワークシートも掲載した。一覧表から志望大学・学部の数値を抜き書きして見比べ、「なぜこの大学に進もうとしているのか」「自分に合ったキャンパスか」と自問できるようにしたのが特徴だ。

## ◆検索サイト特典も

書籍には、「読売教育ネットワーク」のウェブサイトにある「大学の實力検索サイト」に入るためのパスワードも記載した。検索サイトでは、文系・理系、専門分野別や都道府県別に大学・学部を検索できる。検索でヒットした学部については、同時に8学部を表示して退学率や多様性の取り組み、納付金額などを見比べることができるようにした。

### 「大学の實力2019」の主な掲載項目

都道府県	大学名	学部名	定員	学生総数	今春の卒業生		入学者に占める比率(%)											4/6年間の納付金(万円)		奨学金(1人当たりの平均額、万円)		
					4/6年前入学者	卒業	留年	退学	正規雇用	進学	臨床研修医	入試方法別退学					1年次退学	最小額	最大額			
												一般(センタも含む)	AO	指定校	公募制	付属系列					留学生	その他
4年制学部の平均		1084	1158	289	237.4	82.1	10.9	7.0	63.8	10.1	-	5.7	13.8	7.5	6.9	6.1	15.4	8.9	1.8	420	436	33.3
6年制学部の平均		707	723	117.4	88.5	75.4	17.6	7.0	31.4	1.2	37.9	6.2	13.6	11.8	6.5	9.2	5.3	10.2	1.6	1136	1217	

## 参加高校生募集 全国ユース環境活動発表大会

独立行政法人環境再生保全機構は、「第4回全国ユース環境活動発表大会」の参加団体を募集しています。

地球温暖化対策や生物多様性の保全など、2018年度に「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標達成に資する環境活動を実践した高校生らの「団体(部活や同好会など)」が対象で、今年は初めて全国8地区で地方大会が開かれます。各大会の上位2団体が来年2月に東京・渋谷区の国連大学で開かれる全国大会に進出し、環境大臣賞などを競います。各大会では、交流やワークショップの時間も設けられます。《主催》環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステナビリティ高等研究所《後援》読売新聞東京本社



地方大会日程	
11月11日	北海道地方大会 (TKP 札幌駅コンファレンスセンター) 東北地方大会 (TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台東口)
18日	近畿地方大会 (TKP ガーデンシティ PREMIUM 大阪駅前) 中国地方大会 (TKP ガーデンシティ 広島駅前大橋)
12月9日	九州・沖縄地方大会 (TKP 博多駅前シティセンター) 中部地方大会 (TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋ルーセントタワー)
16日	関東地方大会 (TKP 東京駅セントラルコンファレンスセンター) 四国地方大会 (サンポートホール高松)



【応募方法】全国ユース環境ネットワーク事務局にメール (youth@erca.go.jp) か FAX (044・520・2192) で応募用紙を請求の上、お申し込みください。10月29日(月) 18:00必着。

【問い合わせ】事務局 ☎044・520・9505

【公式サイト】<https://www.erca.go.jp/jfge/youth/index.html>

## 参加者募集

### 香港杯全日本大学「学生大使」



昨年度の学生大使

香港特別行政区政府 駐東京経済貿易代表部と読売新聞社が発行する日刊英字紙 The Japan News は、香港と日本のかけ橋となる「学生大使」を募集しています。

香港に関する3つのテーマ(ビジネス、文化、観光)について、香港と日本の交流を促進するアイデアを考えてください。応募締め切りは12月10日(月)です。

来年1月19日(土)に、東京・KDDIホールで行われる最終審査会で、予備審査通過者15人が6分間の英語プレゼンテーションを行い、学生大使4人を選抜します。

学生大使に選ばれた4人は2週間の香港研修旅行に招待されるほか、希望者には在京の香港関連機関または The Japan News で、2週間のインターンシップの機会が与えられます。また、応募者全員に1000円の図書カードが贈られます。応募方法はウェブサイトをご覧ください。

[www.yomiuri.co.jp/adv/hongkongcup2018/](http://www.yomiuri.co.jp/adv/hongkongcup2018/)

【問い合わせ】☎03・3216・7112

メール: hongkongcup@yomiuri.com



今年2月に行われた第3回全国大会の様子(上から)ワークショップ、発表、表彰式

## 途上国の子どもたちに 中古の野球用具を届けよう!

読売新聞社では国際協力機構(JICA)と協力し、「世界の野球グローブ支援プロジェクト」を実施しています。

開発途上国での野球の普及を目的に、広く全国に中古の野球用具の提供を呼びかけ、集まったグローブやバットなどを寄贈します。また、読売巨人軍が運営するジャイアンツアカデミーのコーチを現地に派遣し、子どもたちに野球の実技指導を行います。

今年の寄付の締め切りは10月31日(水)必着です。

プロジェクトの概要及び寄付の方法は、公式サイトをご覧ください。<https://www.yomiuri.co.jp/adv/glove/>



フィジー野球協会に用具を寄贈するJICAのボランティア



海外で学ぶ・リレーエッセー ④5

米・ポモナ・カレッジ

「HOMEから離れたHOME」

谷教育学園幕張高(千葉県 卒、ポモナ・カレッジ 米2年(執筆時)

石田 あかりさん



LAX(ロサンゼルス空港)に降り立ったの  
夢とカーディガンを  
手に持ってたね……

マイリー・サイラスの歌(パ  
ティ・イン・ザU.S.A.)に  
迎えられ、歌詞で表現されたの  
と同じような思いを抱えてロサ  
ンゼルスに到着したのは今から  
ほぼ2年前のことだ。しかし、  
今学期は違った。成田空港を出  
発する前には、目に涙がたまっ  
ていて、到着から1週間たって  
もホームシックが消えることは  
なかった。それどころか、朝起  
きるたび学期終了の日を待ち望  
んでいる自分がいたのだ。

ここまで読まれた方はそう思  
うかもしれないが、決して私は  
大学が嫌いだということではな  
い。むしろ、ポモナにいると正  
しい選択をしてよかったですと日々  
思わせられる。

4学期目の大学生活が始ま  
り、私がホームシックにかかっ

ていることを知った友人や教授  
たちは、快く私を慰め、話を聞  
いてくれた。寮から私を引きず  
り出して近くのクレアモント・  
ビレッジにある私のお気に入り  
のカフェにポバ(タピオカ・テ  
ィー)を飲みに来て行ってく  
れた。その上、私がホームシッ  
クから立ち直ったあとも、引き  
続き気にかけてくれたのだ。こ  
うした雰囲気はポモナにはいつ  
でもある。そして、この雰囲気  
こそが2年目のジンクスと呼ば  
れる特に2年生に多く見られる  
スランプ中でも、私があります  
ポモナに引かれていく理由だ。

もちろん、ポモナもユートピ  
アではない。多くの学生は何ら  
かの個人的な悩みを抱えている  
し、大学外の経済的、政治的、  
そして社会的問題の数々は変わ  
らず大学内でも存在する。それ  
らに加えて、学業はやはり大変  
で、5時間の睡眠と3杯のコー  
ヒーでどうにか乗り切る日もま  
れではない。そのため、大学は  
全くもって歌にあるような「パ  
ーティー・イン・ザU.S.A.  
」  
ではないが、それでも私にとっ  
てポモナ以上の場所はないと心  
から思う。それは、ポモナに過  
ごしやすい気候があるからだ  
でなく、そのメンバーに対して  
心からコミットしてくれる、こ  
の愛すべきコミュニティがあ  
るからだ。

ポモナに入学し、私は恩返し  
をしたいと思うような人々にた  
くさん出会った。そしてこうし  
た環境にいることは、社会に対  
しても自分が学んだことを還元  
し、貢献しようとする気持ち  
を持たせてくれる。リベラル・ア  
ーツの学びを通して、私は芸術  
と科学技術の交わりの探求をし  
たいと思ひ、メディア学の専攻、  
演劇学とコンピューター科学の  
副専攻を決めた。またこれに関  
連して、現在は社会貢献のため  
にデジタルメディアのプラットフォーム  
を用いる事業に興味を  
持っている。こうして人や社会  
に貢献することに何よりも価値  
を見出せるようになったのは、

(会報編集部抄訳 The Japan  
News 2018年5月24日)

### ポモナ・カレッジ

米カリフォルニア州クレアモン  
ト市にある創立1887年のリベ  
ラル・アーツ大学。著名な元教  
授にマイケル・アマコスト元駐  
日大使。



海外留学を目指す高校生に進学支援を行っているNPO法人「留学フェ  
ローシップ」のメンバーが、海外のキャンパスライフをリレー連載します。留  
学フェローシップの詳細はウェブサイトへ。 <http://ryu-fellow.org>

英語の原文は <http://the-japan-news.com/news/article/0004384286> で  
お読みいただけます。



演劇学を副専攻に選ぶ学友たちと写る石田さん(右端) = 本人提供